

営農 Information

インフォメーション



今回の営農インフォメーションでは 種まきのポイントについて 触れたいと思います

種の発芽には「水・酸素・温度・光」などのバランスが重要です。
水のやりすぎと土(覆土)の量に注意。

水分・酸素

野菜の種子の多くは水に浸けたままにしておくと発芽しません。頻繁に水やりすると、土中の空気が占める大きなすきまにまで水が入り、種が水に浸かったままの状態になり酸素が不足して発芽不良をおこします。

種まき直後の水やりはたっぷり与え、その後の水やりは表面が軽く乾いたら行いましょう。不織布や寒冷紗で覆って水分安定を図るのも方法です。

温度管理



発芽適温、平均は20〜25度くらいです。野菜の種類によって発芽に適した温度(発芽適温)があり、この温度がないと発芽しません。誤った時期に芽を出して生育不良になる失敗を避ける為の植物の知恵なのです。

この時期、気温上昇が懸念される場合、寒冷紗(白)や遮光ネットで気温上昇を抑制しましょう。

種袋の裏面には、詳しい説明が記載されていますので、種を購入後は説明をよく読み、性質をよく知ったうえで栽培を始めましょう。

光

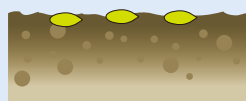
種が発芽するときに、光があつた方が発芽が促進される種を**好光性種子**と呼び、反対に光りに当たると発芽が抑制される種を**嫌光性種子**と呼びます。この中間で光りの影響を全く受けない中間の種も存在します。

種まき後厚く覆土をしてしまうと、好光性種子にとっては光が遮断されるので、発芽に好ましいとはいえません。

好光性種子



覆土は薄くかける。種が見えかくれる程度。
イチゴ・ミツバ・バジル・シソ・パセリ・ラズリン・シユフギク・インゲン・セロリ・コマツナ・レタス・カブなど



嫌光性種子



種の直径の2〜3倍の深さに植える。
カボチャ・トマト・ピーマン・メロン・スイカ・ウリ科植物・タマネギ・ネギ・ニラ・ナス・キュウリ・ダイズ・ダイコンなど



みんなでやろうカメムシ防除!



薬剤散布時期

出穂5〜7日後

トレボン粉剤DL	3〜4kg/10a	収穫7日前まで/3回以内
スタークル粒剤または粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで/3回以内
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで/3回以内

※近くに住宅地がある水田では飛散の少ない**スタークル粒剤又は豆つぶ**を使いましょう。

※農薬を散布するときは日中の暑い時間帯を避けて、朝夕などの涼しい時間帯を選び体調に十分注意して散布しましょう。

【注意】

- 発生が多い場合は**10〜14日後に追加散布**しましょう。
- 出穂後の圃場周辺の草刈は控えましょう。



(散布時期)

今年もカメムシによる被害「斑点米」が予想されます。斑点米被害を防ぐためカメムシの適期防除に地域全体で取り組みましょう。
防除適期は出穂5〜7日後**穂が少し傾き始めた頃**、水田全面に薬剤を散布して下さい。(水田の出穂状況を確認しながら薬剤を散布して下さい。)



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ

